

TAKAMATSUプロジェクト ～Make your dream take wings～

目的：「大学卒業後にどのように生きていくか」までを見通しながら、自分の進路実現に向けて、どのように現在を生き、どのような未来を築いていくかを考えて周囲と協働して行動できる生徒を育成する。
 ※キャリアプラン＝進路意識高揚策（キャリア学習と課外活動など含めた総合学習）とサクセスプラン＝学習支援策が相乗的に活きる教育活動を行う。
 （学力があってこそ進学、人間力があってこそ学力）

- ↓ 行事ごとに必ず、事前学習（目的提示と調査学習など）、事後学習（感想・振り返り記入）を行わせる。
- ↓ 職員会議で、事前に目的と計画を提示し、事後に生徒の振り返りを含めて実施内容を報告する。
- ↓ 生徒には全ての活動について記録を取らせていく。（校外活動、資格取得なども）

*このプランはあくまでも三年間の教育活動の全体的な流れであり、基本となるものです。個々の活動を規定するものではなく、目標に向けての、生徒の学びおよび教員の教育活動の、見取り図的なものです。

2 年 次	月	学期	キャリアプラン (キャリア・進路意識高揚)			総 探 コ マ	サクセスプラン (日々の学習)			支援		
			全校	学年	概要・目的 (生徒視点)		教師の活動	教科学習・ 調査・校外模試	目的 (生徒視点)	目的 (教員視点)	上層	中下層
4	上旬		新年度初め	2年生としてどのように生活し学習していくか決意。	新年度心得、学習、探究、生活、生徒会等 (正副担任)		4/4 実力テスト	2年スタート時点の学習状況・内容定着の確認		講座別授業の円滑なスタートを支援。		
			進路希望調査(スタサポ)	1年次の学習を振り返り、自己の将来像に向けて考える機会とする。	生徒の進路意識を把握し指導に反映。	2	4/5 スタサポ			「中だるみ」傾向をふまえた声かけ。		
			進路講座	主体的・協働性の育成。		1				GWの有効活用を促す。		
5	中旬		個人面談	進路目標を再確認し、目標の実現に向けて生活(学習)習慣を振り返る	個人面談、生徒の進路希望や生活状況を個別に把握			学習習慣の再確立	理科・社会も含めて「予習・授業・復習」のサイクルを維持・定着させることの重要性を意識させる。			
			進路講話	キャリア学習、進路決定の見直しを確認	3年次の進路決定までの流れを確認、学習サイクルの見直しを促す	1						
			探究活動	探究ゼミと自由テーマ講座に分かれて探究開始 テーマ決定：自分の興味・関心を深掘りする 調べべきことを明確化・具体的な調べ方を明確化	探究活動1年間の流れを示し、生徒が自ら課題を設定することを支援							
6	下旬		南信総体	教育実習生に学ぶ	1・2学年で連携し、年度ごとの状況に合わせて柔軟に計画。	1						
			PTA総会 クラスマッチ	学年PTA	進路学習指導についての学校のスタンスを保護者と共有	2						
			県総体 芸術鑑賞	教養醸成。 主体性・協働性の育成		1						
7	中旬		北信越総体			1						
			高松祭	主体性・協働性の育成								
			信大説明会	改めて地元国立大学の講義・説明を聞くことで 学部学科のイメージを広げ、具体的な志望校選定の参考とする	進路室常駐教員中心に企画。担任を通じて生徒に周知し、希望を取りまとめる。	1	7/6 ベネッセ総合 学力テスト (進研模試)	志望の具体的記入。 1年次内容定着と2年次スタート状況を検証				
8	下旬		進路講話	オープンキャンパスに参加する目的や意義を再確認する	夏休み期間中のオープンキャンパス参加を促す							
			科目選択 説明会	3年次科目選択の理解の導入	秋以降の科目選択を見越して、必要な情報を早めにおろし、生徒の主体的判断を促す	1			「志望校」を意識付け	学習定着状況の検証 「中だるみ」の検証 夏休み～秋指導の計画	か夏 す休 み選 びを 活	宜を家 補活 用庭 習連 絡適 日
			保護者面談	学習の振り返り、進路目標の再確認	進路目標を共有し、具体的な行動目標を提示				学習習慣維持状況・ 内容定着の確認	5教科全てに取り組んでいるか、行事・ 班活動の中心となりながらも学習習慣が 維持できているか確認		
9	中旬		夏の各種体験	計画書、報告書を提出。 自分の進路に合わせた個別のオープンキャンパスや職場 体験で視野を広げる	生徒が主体的・意欲的に活動できるよう支援 医療系希望者は2年次までに行くよう促す		8/2 全統記述模試 (希望者)	ややハイレベルな模試をと おして、内容定着および現 在位置の確認		学習リズム・姿勢再確 立。学習集団再構築。		
			探究活動	中間発表：現状のまとめと方向性の確認 講座内で発表し、質問等を出し合うことで適切な 問いの立て直しをする。	探究の計画を確認し、今後の展望と合わせて 問いの立て直し、および研究を深めるア ドバイスを行う。	1	8/23 実力テスト	夏休み中に取り組んだ復習 状況の確認		国教英 各教科で弱点分 野を把握し、必要に応じ て層別に対応する		
			科目選択 説明会	3年次科目選択の知識・理解。 希望進路および大学入試の流れの理解をふまえ ながら、建設的な選択へ。	科目選択と、それに連動する進路活動の見 直しについて説明。 苦手ベースの消極的な選択にならないよう、前 向きな検討を指導。	1						
10	下旬		9/26 社会人講話	社会人の方のお話を聞き、職業観を醸成すると ともに大学の先を見通したキャリアを考える。		1						
			終業式 クラスマッチ	主体性・協働性の育成。		2			前期成績 成果・課題の洗い出し、計画調整、指導 への反映			
			教育懇談会	学年PTA 講演	修学旅行、奨学金説明会を計画	1				調査・模試の「復習・振 り返り」の重要性を改め て確認。		
11	中旬		面談週間	前期成績・取り組みを振り返る 志望大学・系統を固める	個人面談、次年度選択科目が志望系統と合 致しているか確認	2			志望校を徐々に明確にし、 受験方式・科目等を調べる			
			修学旅行事前学習	平和学習、探究学習	修学旅行が学習内容を深め、広げる機会と なるよう支援する。	1	11/1 ベネッセ総合 学力テスト (進研模試)	理・社受験スタート。受験 勉強への意識を持つ	高校の教養としても、5教科全ての学習 が充実するよう、取り組みへの努力を促 す。	連しに志 望校に 対して 日誌系 学習に 活用し 「活用 生」・ 2進の 計画先 画から 具 家 逆 庭 算 的	クけ三 ルに者 確 意 識 談 をのや 促 変 講 す等 学 習 き サ ッ イ カ	
			小論文模試①	課題文型 テーマに沿って、現代社会の問題も織り込みなが ら自己の考えを論理的に記述できるような力を 育成	学習係を中心に教材を選定。	1						
12	下旬		修学旅行	平和学習、社会理解								
			進路講演	受験生への意識変革	今後1年間の見通しを示す 学習意欲が低下しがちな時期を支える	1						
			保護者面談	受験生としての意識をもつ	受験情報共有 科目選択の生徒・家庭の意向最終確認。	1				目標実現に向けた個々の学習法を助言		
1	中旬		慰霊式			1	1/10 ベネッセ総合 学力テスト (進研模試)	1・2年次の範囲の 学力測定		1年後の入試本番を意識させ、志望大学 合格へ向けた自身の位置・課題をつかみ 受験生としてスタートをきらせる。入試 本番と最も相関関係の強い模試とも言わ れるもの	0学期の過ごし方と3年 次スタート意識づけ	
			大学入学共通 テスト	小論文模試②	リライト 小論文模試①の添削をふまえ、自己の思考を正 確に文章に表現する力を育成	3年次に向けた課題の確認と指導方針策 定。 入試を超えた一般的な記述力という観点でも 検証	1			自身の進路・大学を志望す る理由も言語化		
			探究活動	探究まとめ 持っている情報と示したい情報の明確化 整理分析方法の明確化	引用しておしまにならないよう、複数の 情報を目的にあわせて比較、関連付け、構 造化させる	2	1/24 全統記述模試 (希望者)	ややハイレベルな模試をと おして、内容定着および現 在位置の確認		模試の達成目標を意識・ 計画させる。振り返りま でのサイクル確立を支 援。 学びなおし分野の洗い出 し		
2	下旬		探究活動	探究発表準備 課題に対して言えること(主張)を作る 発表形式を決め、資料を作る	主張を支える根拠、根拠に偏りが ないか 等、客観的な評価指標を提示	2	2/11 共通テスト 模試 (進研マーク)	記述を含むマーク形式に慣 れ、既習範囲の定着度を確認 する	高2までの内容習得の漏れ・ 抜けを確認し 補充を促す			
			探究発表	形式自由、クラス発表 主張を正しく相手に伝える 探究の内容、過程について振り返る	声の大きさ、文字の見やすさ等、 発表の評価 指標を提示							
			卒業式									
3	中旬		探究発表	形式自由、学年発表 主張を正しく相手に伝える 探究の内容、過程について振り返る	クラス発表時の課題を修正し、 全体発表に 向けて指導する。	6						
			特編授業	学年成績 1年間の振り返り 次年度の計画	後期通知表 3月～3年次の学習が円滑にスタートで きるよう特編授業を計画する。							
			卒業式									

